

Summer Festa 2012

<STEP2 学習スタートセミナー>

「TAC講師が語る！

税理士試験突破の5つのポイント」

TAC税理士講座 8/27(月)より本格開講！

※ 先行クラス 8/20(月)～

各コース初回講義を、無料で体験受講できます。

開講日に、各校受付へ直接お越しください（予約不要）。

※ コース開講日程につきましては、「通学パンフレット」をご覧ください。

※ 受講料がお得になる「早割キャンペーン」は、8/29(水)までとなります。

TAC 税理士講座

目次

	ページ
テーマ1 税理士試験について	1～5
テーマ2 税理士試験突破の5つのポイント	6～14

テーマ 1 税理士試験について

税理士は、納税者の納税義務が適正に実現されるための業務を行うと同時に、国の財政等に直接関係する業務を行っており、社会的に重要な職業です。さらに、その業務内容は、従来からの税務業務や会計業務にとどまらず、経営コンサルティングや国際税務など多岐にわたっています。

ただし、税理士として業務を行うためには、税理士試験に合格しなければなりません。ここでは、税理士試験の詳細について、データとともに紹介致します。

1 税理士試験の日程

税理士試験は、例年7月下旬から8月上旬の平日3日間に行われます。試験時間は、全科目とも2時間です。また、合格発表は、例年12月中旬に行われます。

2 受験資格

税理士試験を受験するには下記のいずれかの受験資格を有していることが必要です。

1 学識

大学3年次以上の学生で、法律学又は経済学に属する科目を含め62単位以上を取得したもの。または、法律学又は経済学に属する科目を含め36単位（外国語及び保健体育科目を除く最低24単位の一般教育科目が必要）以上を取得した者

(1) 法律学に属する科目の例

法学、法律概論、憲法、民法、刑法、商法、行政法、労働法、国際法等

(2) 経済学に属する科目の例

経済学、(マクロ又はミクロ)経済学、経済学原論、経済政策、経済学史、財政学、国際経済論、金融論、貿易論、経営学、会計学、簿記学、農業経済、工業経済等

2 資格

(1) 日本商工会議所主催簿記検定試験1級合格者

(2) (社)全国経理学校協会主催簿記能力検定試験上級合格者

3 職歴

(1) 弁理士、司法書士、行政書士、社会保険労務士等（業務従事期間3年以上）

(2) 法人等における会計事務経験者（業務従事期間3年以上）

(3) 税理士、公認会計士、弁護士等の業務補助経験者（業務従事期間3年以上）

なお、受験資格を有するかどうか判断しかねる場合には、「国税庁内国税審議会税理士分科会」へお問い合わせ下さい。

③ 科目選択制度

科目選択制度とは、税理士試験の試験科目全11科目から5科目を選択することができる制度です。試験科目の中には、下記の表で示すような必須科目・選択必須科目等の制約もありますが、この制度により**科目選択**にかなりの幅が認められています。

会計科目		税法科目								
必 須		選択必須		選 択						
簿記論	財務諸表論	法人税法	所得税法	相続税法	消費税法	酒税法	固定資産税	事業税	住民税	国税徴収法

(注1) 消費税法と酒税法は、どちらか1科目しか選択できません。

(注2) 事業税と住民税は、どちらか1科目しか選択できません。

④ 試験科目の内容

1 必須科目

科 目	特 徴
簿 記 論	企業の経営活動をどのように記録、計算するかを学習する科目です。試験は計算のみ3題形式で出題されます。
財務諸表論	株主等に報告するための財務諸表（報告書）を作成するまでの考え方や約束事について学習する科目です。試験は理論と計算に分けて出題され、理論は会計に関する考え方について論述させる形式で、計算は会社法等の法律等に従って実際に財務諸表を作成する形式で出題されています。

2 選択必須科目

科 目	特 徴
法 人 税 法	会社の儲けに対して課される税金について定めた法人税法の考え方を学習する科目です。試験は理論と計算に分けて出題され、理論は法人税の規定を論述させる形式で、計算はある会社の納付すべき法人税額までを求めさせる形式で出題されています。
所 得 税 法	個人の儲けに対して課される税金について定めた所得税法という法律の考え方を学習する科目です。試験は理論と計算に分けて出題され、理論は所得税法の規定を論述させる形式で、計算はある個人の納付すべき所得税額までを求めさせる形式で出題されています。

3 選択科目

科 目	特 徴
相 続 税 法	財産が無償で個人から他の個人に渡った場合に財産を取得した者に課される税金について定めた相続税法という法律の考え方を学習する科目です。試験は理論と計算に分けて出題されますが、簿記の知識を必要とせず、理論と計算は密接に関連しているため、効果的な学習が可能な科目といえます。
酒 税 法	アルコール飲料に対して課される税金について定めた酒税法という法律の考え方を学習する科目です。試験は理論と計算に分けて出題され、理論は酒税法の体系的な理解を問う問題が多く、計算は酒類製造業者の1月間に出庫した酒類に対して納付すべき酒税額を求めさせる具体的な形式のものが出題されています。
消 費 税 法	消費税は、商品の販売やサービスの提供などに対して課税され、価格に上乗せされて最終的には消費者が負担する間接税で、事業者が預かった税金を計算する科目です。試験は他の科目と同じように理論と計算に分かれて出題されます。税理士の実務で最も重要な科目のひとつといえます。
固定資産税	土地・家屋・償却資産といった固定資産に対して課される税金について定めた地方税法という法律の中の固定資産税編についてその考え方を学習する科目です。出題傾向が安定していて学習しやすく、他の科目と同じように理論と計算に分かれて出題されています。
事 業 税	事業活動を行う法人又は個人は公共施設の利用が不可欠であり、この公共施設の維持・保護等の経費負担として都道府県がその事業者に対して課する税金が事業税です。試験は通常、理論を中心に出題され、特に第1問の理論の内容が事例問題であるため合否のカギとなっています。なお、法人税に関する知識があれば効率的に学習できます。
住 民 税	所得のある個人及び法人等に対して課される税金で、地方税法に定められている都道府県税及び市町村民税に関する部分を総称したものです。試験は理論と計算に分けられ、理論は個人及び法人から各1問の計2問、計算は総合問題又は個別問題が出題されます。なお、所得税に関する基礎知識があれば効率的に学習できます。
国税徴収法	国税徴収法は単に国税の徴収のみならず、地方税等の徴収のベースとなっている大切な法律です。試験の出題はその殆んどが論述形式の理論問題と短答問題で占められています。法律がどのように関連しているのか理解することを目的としているため簿記の知識は全く必要ありません。

5 科目合格制度

科目合格制度とは、1科目ずつ受験することができ、1度合格した科目は生涯有効になる制度です。つまり、1度の受験で5科目すべてに合格する必要はなく、毎年少しずつ合格科目を積み重ねることにより、複数年かけて5科目合格を達成すればよいのです。したがって、1年に1科目ずつ確実に合格し、5年計画で税理士になる資格を取得することも可能です。

また、科目合格の段階でも評価され、就職や転職に当たり有利に働くことも、科目合格制度のメリットです。つまり、ライフスタイルや将来プランに合わせて受験でき、一歩ずつステップアップ（キャリアアップ）を図りながら、着実にゴールを目指すことができます。

科目合格制度のポイント

- 1度で5科目合格する必要はなく、1科目ずつ受験できる
- 受験科目ごとに合否が判定され、合格科目は翌年以降の試験が生涯免除される
- ライフスタイルや将来プランに合わせて受験できる
- 科目合格の段階でも評価される（就職・転職に断然有利！）



一歩ずつステップアップしながら、確実に税理士資格を取得できる！

6 合格基準

税理士試験の合格基準は、各科目ともに満点の60%（すなわち60点）となっていますが、出題される問題の難易度やボリュームに関わらず、各科目の合格率は、ほぼ10～15%で毎年安定しています。つまり税理士試験は、全受験者のうち上位10～15%の人が合格する**競争試験**ということです。

7 税理士試験に合格するためには

税理士試験は、どの科目の出題もボリュームが多く、2時間という制限時間内にすべてを解答できる問題はほとんど出題されません。しかしながら、**本試験では問題のすべてを解答する必要はありません**。満点の60%（つまり60点）以上が、公表されている合格基準だからです。

また、難易度については、年によりかなりバラツキがあります。ある年の合格ラインはTACでの予想配点で70点位、次の年では40点位のように、簡単な年と難しい年では約30点もの開きがあります。では、なぜ毎年一定の合格率を保っているのでしょうか？

実は、正解率の高い解答箇所に高い配点を置き、正解率の低い解答箇所は配点を軽くする等の採点上の調整が行われているのです。したがって、難しい箇所が解答できたか否かではなく、受験生の多くが解答できる基本的事項をどれだけ確実に得点したかで、合否は決まります。

合格のポイント

- ・ 2時間では解けきれないボリュームの問題が毎年出題される
- ・ 難易度に関係なく毎年一定の合格率を保っている
- ・ 合否をわけるのは基本的事項の正解率



基本的事項をしっかり固め、それを確実に得点していくことが大切！



参 考 最近5年間の科目別合格率の推移

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
簿記論	12.5%	14.2%	9.9%	12.5%	14.8%
財務諸表論	15.2%	16.1%	16.0%	13.1%	16.6%
法人税法	12.3%	11.0%	12.1%	12.6%	12.5%
所得税法	12.7%	12.8%	13.4%	14.3%	13.4%
相続税法	9.8%	12.4%	14.7%	13.9%	11.6%
酒税法	10.2%	10.8%	10.4%	12.3%	12.3%
消費税法	10.1%	13.3%	12.4%	12.3%	13.7%
固定資産税	14.1%	10.3%	10.0%	10.5%	12.2%
事業税	9.6%	10.1%	13.8%	11.9%	17.1%
住民税	15.0%	14.6%	18.2%	16.2%	16.5%
国税徴収法	10.9%	11.1%	11.3%	12.1%	13.3%

テーマ 2 税理士試験突破の5つのポイント

初めて税理士試験を受験される方は、勉強を開始するにあたって、様々な疑問や不安を抱えていらっしゃると思います。ここでは、税理士試験を突破するための5つのポイントを説明します。当セミナーで疑問点・不安点を解消していただき、9月から本格的な学習の良いスタートを切るのに少しでもお役に立てれば幸いです。

1 受験計画の立て方

税理士試験は「科目合格制度」「科目選択制度」といった特徴があるので、受験計画の立案が、他の国家試験に比べ複雑かつ重要になります。

税理士試験の受験計画を立てるにあたっては、「長期的目標（何年で5科目に合格するか？）」と「短期的目標（次の試験でどの科目を受験するか？）」の2つの目標を明確に持って下さい。

1 長期的目標（何年で5科目に合格するか？）

「何年で5科目に合格するか？」は、「学習に充てられる時間がどれくらいあるか？」、「どの科目を受験するか？」等によって左右されますが、学生等、受験に専念できる環境にある方は2～3年、仕事との両立を目指す社会人の方は3～5年位を目安にするのが一般的です。

なお、税理士試験の各科目は、下記の通りボリュームがマチマチです。ボリュームの少ない科目を組み合わせることで、仕事をしながらでも1年で複数科目の合格も可能となります。

標準学習時間					
ボリューム	↑	600時間	法人税法	所得税法	
		450時間	簿記論	財務諸表論	相続税法
		300時間	消費税法		
		250時間	固定資産税		
		200時間	事業税	住民税	
	↓	150時間	酒税法	国税徴収法	

（注） 標準学習時間には、TACでの講義時間を含みます。なお、学習時間は個人差がありますので、目安としてお考えください。

2 短期的目標（最初の試験でどの科目を受験するか？）

長期的目標が定まったならば、次に「最初の試験でどの科目を受験するか？」を決めましょう。その際には、次の点に留意してください。

(1) 1週間あたりの学習可能時間を正確に見積もる

どれだけ能力のある方でも、学習に充てる時間が不足していると、良い結果を得ることはできません。次の表で1週間あたりの学習可能な時間を計算してみましょう。

（単位：時間）

	月	火	水	木	金	土	日	合計
可処分時間								

(2) 各科目の特徴を把握する

税理士試験の各科目には、「簿記知識が必要な科目とそうでない科目」、「初めての受験に向いている科目とそうでない科目」というようにそれぞれ特徴があります。これらを把握して、適切な受験科目の選択を行って下さい。

① 各科目の簿記知識の必要性

簿記の知識が不要な科目 相続税法 酒税法 固定資産税 国税徴収法

簿記3級の知識が必要な科目 消費税法 事業税

簿記2級の知識が必要な科目 簿記論 財務諸表論 所得税法

簿記論・財務諸表論の知識が必要な科目 法人税法

所得税法の知識が必要な科目 住民税

② 初めての受験に向いている科目

簿記論・財務諸表論といった会計科目は必須科目であり、その知識は法人税法等の学習において役立ちます。また、これらの科目は、同時に学習すると相乗効果が得られます。しかし、それぞれボリュームがあるため、いずれか1科目選択するのであれば、簿記論をおすすめします。

③ 2回目以降の受験に向いている科目

法人税法・所得税法といった選択必須科目はボリュームが多いことから、学習スタンスが確立した2回目以降に受験されることをおすすめします。また、事業税・住民税は、法人税法・所得税法と深く関連することから、これらは法人税法・所得税法と同時にしくは学習後に受験するのが好ましいです。

3 科目選択の具体例

学 習 時 間 ↑ ↓	週35時間程度	簿記論 + 財務諸表論 + 税法科目(ボリューム少)※
	週25時間程度	簿記論 + 財務諸表論
	週20時間程度	簿記論 or 税法科目(ボリューム少)※
	週10時間程度	簿記論

※ 消費税法・酒税法・固定資産税・国税徴収法のうち、いずれか1科目

< T A C > 無断複写・複製を禁じます

2 講義の受け方

皆さんが学習を進める上で最も重要なのは、学習内容を正確に理解して覚えることです。しかしながら、膨大な試験範囲の中から、優先順位を考えながら効率的に学習することは、独学では大変難しいものがあります。

T A Cでは、税理士試験合格に最短距離で到達できるカリキュラムと教材を長年の指導経験に基づいて制作しています。また、講師陣が、これらを用いて初学者の方にもわかりやすく講義を行います。ここでは、T A Cで講義を受ける際の留意点を説明します。

1 講義は、必ずすべて受講する

税理士試験は長丁場ですので、学習を継続するためには、規則正しい「学習のリズム」が必要となります。

さらに、T A Cのカリキュラムは、税理士試験合格に最短距離で到達できるカリキュラムとなっており、すべて受講することで合格するための知識や答案作成能力が身につきます。一方、毎回の講義内容には流れがありますので、仮に1回欠席してしまうと、学習内容がつながらなくなる恐れがあります。

T A Cの教室講座は、毎週決まった曜日、決まった時間帯に規則正しく講義を行いますので、これをペースメーカーとして利用すれば、自然と「学習のリズム」ができ、合格するための力が必ず身につきます。1回も欠席することなく、すべての講義に出席してください。

しかしながら、急な仕事や体調不良等の理由により、やむを得ず欠席しなければならないことも想定できます。そのような事態に備えて、T A C税理士講座ではフォローシステムを下記の通り用意しています。これらを利用して、欠席した講義をできるだけ早めにフォロー受講してください。

- (1) クラス自由出席制
- (2) 音声D L（ダウンロード）フォロー
- (3) W e bフォロー（有料）
- (4) ビデオ（D V D）フォロー（有料）

また、通学ビデオ（D V D）講座及び通信講座で学習する場合は、講義を視聴する曜日・時間帯を決定しましょう。そうすることにより、教室講座と全く同じ学習効果が得られます。

2 講義は集中して受講する

税理士試験は応用的な内容も出題されるため、単なる丸暗記だけでは太刀打ちできません。

TACでは、「なぜ、そのような計算を行うのか?」「どうして、そのような規定になっているのか?」といった内容説明に力点を置いた、理解中心の講義を展開しています。

したがって、テキストには載っていないけれども、理解や問題を解答する上で助けになるような事項を講義では説明します。それらをテキストにメモ書きする等して、一言たりとも逃さないように集中して受講してください。

なお、教室受講の場合は、なるべく前の方の座席に着席すると、自然と講義に集中できます。積極的な姿勢で講義に臨んでください。

3 疑問点や学習上の悩みは、すぐ講師に質問・相談する

長い受験勉強の間には、苦手論点やスランプは必ず出てきます。そのような学習上の疑問点や悩みが生じたら、一人で抱え込まず、すぐ講師に質問・相談するように心がけましょう。

講師は、税理士受験の「先輩」でもあります。受験生時代に皆さんと同様な苦手論点やスランプを経験していますので、必ず適切なアドバイスが得られます。

講師への質問・相談は、講義前後や休憩時間に直接できます。また、それ以外でも電話やメールでも質問対応しています。

講師は、皆さんが学習を進めていく上での「ツール」です。どんどん活用してください。

参 考 スクーリング制度

すべての通信講座には「スクーリング制度（教室で無料受講できる制度）」というフォローシステムも設けています。教室の臨場感を味わいたい場合や、他の受講生のレベルを知る上で大変有用です。

③ 復習の仕方

税理士試験は筆記試験ですので、講義を受けたからといって合格できる試験ではありません。講義で理解した知識レベルを、さらに問題が解けるレベルまで引き上げなければなりません。したがって、「復習」こそ合格のカギといえます。

また、知識や答案作成能力を合格レベルまでもっていくためには、計画的・規則的に学習を行う必要があります。そのためには、「週間(習慣?)スケジュール表」を作成し、それに基づいて実行するのが一番効率的です。これを作成する上で、下記の事項を考慮してください。

1 優先順位を考えて、無理のないスケジュールを

無理な学習計画を立てたせいで、志半ばで挫折してしまう方も少なくありません。したがって、生活の中での優先順位を考えて、ゆとりをもったスケジューリングを心がけましょう。週間スケジュール表作成にあたっては、次の順序で埋めていくとよいでしょう。

- (1) コアタイム(睡眠、食事、移動、就業時間や大学講義、TACの講義等)を記入
- (2) 各科目ごとの復習する時間を記入
- (3) 余った時間はフリータイム(完全休息日を設ける等、必ず息抜きする時間を設ける)

2 生活リズムを朝型にシフトする

合格者の中には「生活リズムを朝型にして、学習時間を確保した。」という方がたくさんいらっしゃいます。夜の疲れ切った頭より、朝のすっきりした頭で学習した方が効率的だからというのが理由です。短い時間ではありますが、時間が制約される分、かえって集中することになり、効率的に学習できます。

3 復習するタイミング

(1) 講義を受けたらすぐ復習

学習内容を確実に身につけるには、講義を受けたすぐ後に復習するのが大変効果的です。まさに、「鉄は熱いうちに打て」です。

(2) 計算は毎日学習

計算の学習は、コンスタントな反復練習が大変効果的です。30分だけの日があってもかまいません。毎日学習しましょう。

(3) 理論は、移動時間も利用

これも合格者の体験談ですが、「細切れの時間を有効利用した。」という事をよく耳にします。中でも移動時間はその代表例です。理論は暗記が学習の中心になりますので、暗記用の教材を常に携帯していれば、いつでもどこでも学習することができます。時間を上手に使い、効率良く学習して下さい。

4 学習すべき内容(小さな目標)を事前に決める

「今日は計算問題を10題解こう」とか「理論1題を必ずマスターしよう」というように、学習内容を事前に決めて、それをノルマとして学習しましょう。その方が集中力が高まりますし、達成感を味わうことでモチベーションも高まります。この小さな目標をコツコツ積み上げていけば、最後には大きな目標も達成できます。まさに「ちりも積もれば山となる」です。

 参 考 1 週間のスケジュール

1 モデルプラン（社会人の場合）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
6:00	睡眠 復習(簿記)	睡眠 復習(簿記)	睡眠 復習(簿記)	睡眠 復習(簿記)	睡眠 復習(簿記)	睡眠 復習(財表)	睡眠
8:00	自由 移動(暗記)	自由 移動(暗記)	自由 移動(暗記)	自由 移動(暗記)	自由 移動(暗記)	自由	自由
10:00	会社	会社	会社	会社	会社	移動(暗記)	
12:00						講義 (財表)	
14:00						休憩	
16:00						講義 (財表)	
18:00						休憩	
20:00	移動(暗記)	移動(暗記)	移動(暗記)	移動(暗記)	移動(暗記)	復習(財表)	
22:00	講義 (簿記)	自由 復習(財表)	自由 復習(財表) 復習(簿記)	講義 (簿記)	自由 復習(財表)	復習(簿記) 移動(暗記)	
0:00	移動(暗記) 自由	自由	自由	移動(暗記) 自由	自由	自由	復習 (予備)
2:00	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠
4:00							

※ 移動時間を利用して財務諸表論の理論を暗記する

<TAC>無断複写・複製を禁じます

2 あなたの学習プランは？

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
6:00							
8:00							
10:00							
12:00							
14:00							
16:00							
18:00							
20:00							
22:00							
0:00							
2:00							
4:00							

4 テストの受け方

TACでは、前回の講義内容が理解できているか確認するため、毎回講義の冒頭に「ミニテスト」を実施します。また、これまでの学習内容が定着できているか、その効果測定を行うため、定期的に「実力テスト」も実施します。さらに直前期においては、本試験と同様の形式・難易度の「答練」を繰り返し実施し、答案作成能力に磨きをかけていきます。

ここでは、これらのテストの受け方について説明します。

1 テストはすべて受けて、必ず提出する

「テストが好きだ」という方は、おそらくいないと思います。しかしながら、税理士になるには試験に合格しなければなりません。しかも、税理士試験は年1回しかありません。そこで自分の持てる力を最大限発揮するためには、「試験慣れ」する必要があります。TACで実施するテストは、すべて受けましょう。

なお、本試験は出題者が採点を行います。したがって、「答案」には他者が見てもわかるような「客観性」が要求されます。

TACでは、皆さんにテストの答案を提出してもらい、それを講師が採点します。特に理論の答案は、独りよがりになりがちですので、必ず提出して、講師のチェックを受けてください。これにより、皆さんの答案に「客観性」が確保されます。

2 テストの目的は、「弱点発見・克服」にある

テストを受ける上で最も重要なのは、良い点数をとることではなく、「自分の弱点を発見する」ことです。

誰しもテストでは良い点数をとりたいと考えますが、実際はなかなかうまくいかず、落ち込むこともあります。

しかし、TACで実施するテストは、すべて本試験に向けての「練習試合」です。そこで色々なことを試して、もし失敗しても、それを本試験までに修正すれば良いのです。

「なんでこんな間違いをしたんだ」と自分を責めるのではなく、「本試験前にこのような弱点があることに気づけてよかった」とポジティブにとらえましょう。そして、そのウィークポイントを本試験までに補強しましょう。まさに「失敗は成功のもと」です。

5 モチベーションの保ち方

税理士試験は長丁場です。効果的な学習を継続的にし、夢を実現させるためには、モチベーションを高く持ち続けることが必要です。ここでは、モチベーションを持続するためのちょっとしたコツを提案します。皆さんが学習をすすめていく上で、少しでも参考になれば幸いです。

1 税理士資格取得後の自分を思い描く

例えば、「独立開業して一国一城の主となり、自分だけしかできないコンサルティングの仕事をして多くの顧問先から信頼される。」といったように、資格を取得した後、税理士としてどのような仕事をし、どのような形で社会貢献するかといった将来のビジョンを具体的に持たしましょう。そして、それを紙に書き出して、常日頃から確認してください。最終目標を常に意識することでモチベーションを高く維持することができ、それができれば必ず夢も実現します。

2 目標を達成したら自分にご褒美を

「今週のノルマを達成したら、週末ドライブに行こう!」、「ミニテストで満点をとったら、週末友達（家族）と出かけよう!」といったように、大好きな趣味や遊びを目の前にぶら下げておけば、嫌なことでも最後までやり通すことができます。「アメとムチ」ではありませんが、目標を達成したら自分にご褒美をあげましょう。次の学習の活力にもなるはずです。

3 受験仲間をつくる

同じ目標をもっている仲間と接し、情報や意見を交換することは、気持ちが鼓舞され、モチベーションを向上させるにはとても良い方法です。

受験仲間ができれば、わからないところを教えあったり、本試験や科目選択、その後の就職等、色々な情報を交換できます。さらに、受験が終わった後も、仕事上の相談相手としてこの関係はずっと続いていきます。受験仲間は、生涯お互いを高め合える存在になるでしょう。

4 家族・友人を味方にする

税理士受験では、かなりの時間を勉強に費やすことになります。そして、その勉強に集中できる環境を作るには、必ず家族や友人等の協力が不可欠です。「自分がなぜ勉強を始めたいのか」「将来自分はどうなりたいのか」といった考えを説明し、味方を作っていきましょう。

もし壁にぶち当たってしまったら、家族や友人の力を借りて励ましてもらいましょう。「頑張ってる」と応援してくれる味方がいれば、必ず壁は乗り越えられます。

本試験が終わったら、協力してくれた人に感謝の気持ちを伝えることも忘れないで下さい。

最 後 に

本日は、お忙しい中、当セミナーにご参加頂きありがとうございました。

税理士という仕事は本当に魅力ある職業ですので、是非ともチャレンジして下さい。TAC税理士講座一同、皆さんの1年でも早い税理士試験合格をサポート致します。